

松本市教育研修センターだより

No.24 令和6年3月29日

令和6年度の松本市教職員研修が策定されました

「学校現場の教育課題・必要感に寄り添った研修」の一層の充実をめざして

令和6年の松本市教職員研修の計画に当たっては、令和5年度研修のリフレクションシートにいただいたご意見や市としての教育課題等を踏まえ、開設講座を検討してまいりました。その際、何より大切に考えたのが「子どもたち・先生方が直面する課題や、必要感に寄り添った研修」としての役割を拡充することです。具体的には、以下のような観点を重点として講座の構築をすすめました。

① ICT 活用に関する研修講座の充実

授業におけるタブレット端末をはじめ、校務の効率的な運用等、学校現場における ICT の活用については、ますますその必要性が高まっています。次年度、ICT 活用に係る講座内容を見直し、多くの方が様々なニーズに応じて研修に参加できる体制づくりをめざします。

- ➡「訪問型 ICT 活用研修講座」を新設、学校のニーズに応じた研修を実施できるようにします。
- ➡既設の研修講座の内容を見直し「ICT の有効活用のあり方」の視点を位置付けます。

② 基礎形成期相当の先生向け研修講座の充実

初任研を終了し、実践の先頭に立ち、日々教員としての歩みを進めている基礎形成期にあたる若年層の先生方（講師の先生を含む）を対象とした講座の充実を図ります。

- ➡「各教科の授業づくり」「学級づくり」「探究の学び」等について、基礎を学び、新たな実践へのチャレンジのきっかけとなる講座の充実を図ります。

③ 「探究の学び」の推進を目指した講座の充実

「子どもが主人公」の授業づくり・学校づくりには欠かせない「探究的な学び」。各学校で積極的に実践が始まっている一方で、決まった「教科書」がない「探究」の進め方に戸惑いがあったり、もっと深く「探究」を学びたいと願いを持たれたり、様々な研修ニーズが生まれています。

- ➡「探究の学び」に係る基礎的な講座を開設します。
- ➡「探究の学び」を積極的に推進する中核教員を育成する連続講座を開設します。

④ 特別支援教育・インクルーシブな教育環境づくりの推進

すべての子どもが自分らしくのびのびと学ぶインクルーシブな教育環境づくりや、発達障がいのある児童生徒の理解・支援のあり方に関する講座の拡充を図ります。令和6年4月に設立される松本市インクルーシブセンターとの連携も図ります。

- ➡通常学級担任向けの「インクルーシブ教育システム基礎講座」を開設します。
- ➡校長・特別支援教育コーディネーターがともに受講する研修講座を開設します。

⑤ リーディングスクール実践校に学ぶ研修を実施

「探究」「単元内自由進度学習」等、「子ども主体の学び」に先進的にチャレンジしているリーディングスクール。授業参観や研究主任の話等を通して、その取組に具体的に学ぶ講座を開設します。自校での実践のつなげることを図ります。

- ➡「実践校の取組に学ぶ講座」を3講座実施します。



奮ってご参加ください！

【訪問型】特別支援教育研修 実践校ミーティング

はじめてのミーティング お互いの「学び」を交流

「学校全体としてインクルーシブな教育環境を充実させたい」願いをもった学校が、講師の先生の訪問による支援（通常学級の参観・助言や、教職員全体への研修）を受けながら実践を進める「訪問型特別支援研修」。先生方の子ども観・指導観を深め、インクルーシブな環境を実現することを目指し、講師の先生方のご協力を得て、昨年度より実施しています。本年度は7校が実践校として、それぞれの取組を進めてこられました。

3月8日、初めての試みとして、実践校がオンラインで集まり、この研修でのそれぞれの学びを振り返り交流し合う「実践校ミーティング」を開催しました。

「ミーティング」には、講師の倉澤輝巳先生、宮内かつら先生、各校の特別支援コーディネーターの他、校長先生や教頭先生も参加され、変容した先生の姿や学校全体の雰囲気の変化など、この研修の成果をエピソードを交え、豊かに語っていただきました。

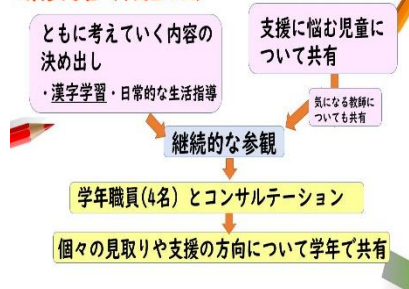


各校の発表から

授業をもとに懇談いただく中で、児童生徒の特性を、一つの才能である意識して、授業などに取り入れるなど、先生たちの子ども観が大きく変わりました。常に全ての活動をインクルーシブの考え方で進めようと考えようになりました。【大野川小中学校】

研修を通して「インクルーシブ」の考え方は「どの子ども」が重要で、互いが持っている得意・不得意を理解し合い、支え合うことだ、ということを感じました。子ども達に育みたい姿を学年ごとに長期・短期で立てスモールステップで取り組むことで、学級が安定し、子どもたちの成長が感じられました。【本郷小学校】

研修内容（年間全6回）



「子どもに任せなければ」という気持ちが強すぎて、少し雑になってしまっていた自分の授業を見直すきっかけをいただきました。指導のスタイルを変えていくのは大変でしたが「できていることあるよ。」と認めていただいたのが励みになりました。子どもの発達について学びなおしたいと思います。【今井小学校】

授業を通して懇談いただく中で、今まであまり意識しなかった「自分の実践のよさ」を含め、具体的にどのようにしたらよいか見返す機会になりました。個々の子どもに対する言葉がけで迷っていた先生方が、懇談後「子どもを後押しする言葉になりましたよ。」と励まされ大きな力添えになりました。【岡田小学校】

配慮が必要な児童への対応に苦慮している先生が多い現状でした。実践の窓口を「漢字練習」に絞り込み、授業をもとに全学級担任と懇談をいただきました。「指導を振り返ることの大切さ」が共有され、個に寄り添おうとする先生方の意識が高まりました。互いの声のけが増え、チーム力も高まりました！【芳川小学校】

気になる児童を集団の中でどう支えいくか困っている先生が大勢いました。研修後、「できるようにしなきゃ」というこだわりを手放すことで、「接し方が変わってきた」と話す職員もいました。子どもの見方や対応の仕方を全職員で学び直す機会になり、学校全体をよりよく変化させるきっかけになりました。【開明小学校】

インクルーシブな教育環境作りについて、継続的に学ぶ機会になりました。実際の本校の様子を示しながら「視覚化」「スモールステップ化」などの視点を紹介いただき、先生方が実践に生かそうとしています。生徒への対応についても「6秒ルール」等を教わり、生徒との向き合い方を学び直す機会になりました【梓川中学校】

インクルーシブを志す学びのコミュニティに

これまでは、講師の先生との1対1のつながりの中にあった実践校の取組が、この交流によりお互いの取組を分かち合いことで、「ともに取り組む仲間」としてのコミュニティになりつつあることを感じました。こうして、インクルーシブな教育環境を目指す学校の動きを広げていかれたらと思います。